

トップコミットメント

2011年度を振り返って

ミネベアグループは、CSR基本方針として「社会を支える精密部品メーカーとして、『信頼性が高く、エネルギー消費の少ない製品を安定的に供給し、広く普及させる』ことを通して、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献する」と定めています。2011年度は、当社グループにとって、これまで積み重ねてきた「真摯なものづくり」が試され、このCSR基本方針の真価を問われた一年でした。

東日本大震災による原子力発電所事故は、我が国のエネルギーの需要と供給のあり方に関して社会経済構造全体に及ぶパラダイム・シフトと言っても過言ではない影響を与えることになりました。必要とされるエネルギーをどのように供給するか、また供給されるエネルギーをどのように最適配分するかについて、国家レベルで議論が行われていますが、この中で、エネルギー消費の削減は産業界から一般家庭までが問題意識を共有し取り組むべき喫緊の課題です。

当社グループでは、私たちが生産する製品の高度化を進めることが、直接、間接的にエネルギー消費の削減につながると考え、安全で省エネルギー、省資源に役立つ製品の開発に引き続き取り組んでまいります。

東日本大震災は当社を含めたサプライチェーンに大きな影響を与えました。さらにタイにおける大洪水は、タイの5つの製造拠点のうち2つの拠点到浸水被害をもたらすだけでなく、日系企業をはじめ当地に進出している数多くの製造業が長期にわたって操業停止を余儀なくされるなど、大きな被害をもたらしました。予期せぬ大災害の発生は、電力供給をはじめとしたライフライン、生産・流通の分断や混乱、さらには従業員の生活の根幹にも影響を及ぼすなど、私たちが乗り越えなくてはならないさまざまな課題を投げかけました。

当社グループでは、タイの生産拠点で世界的に高いシェアを持つ製品群を生産しており、このことは当社グループの企業価値の源泉の一つであると同時に、重い供給責任を負うことでもあります。私たちはこの供給責任を全うすべく、生産施設に対する緊急の洪水対策、重機・生産設備の確保、早期の復旧のためのさまざまな対策、従業



ミネベア株式会社
代表取締役 社長執行役員

貝沼由久

員の安全および通勤の確保など全社的BCP(事業継続計画およびマネジメント)対応を行いました。また、災害復旧の過程では、大規模洪水が環境への影響をもたらしていないことを調査、確認の上で、生産活動の再開に着手するなど、CSR基本方針に則した取り組みを実施しました。

さらに、2012年1月にCSR推進の取り組みの一つとして、国連グローバル・コンパクトへの参加を表明しました。当社グループは世界各地に事業拠点をもち、さまざまなバックグラウンドの従業員が、良好なコミュニケーションの下、切磋琢磨し、ものづくりの価値を高め合ってきたグローバル企業であると自負しています。当社グループがグローバル企業として社会的責任を果たしていくために、国連グローバル・コンパクトの10原則を守ることは当然のことと考えています。これまでも積極的に対応してきましたが、今回の参加を機にあらためて自覚をし、取り組みのレベルを高めてまいります。

また、2011年度は新たな取り組みに挑戦した年でもありました。お取引先様との協力関係を強化し、サプライチェーン全体でのCSR推進を目指すためのCSR調達ガイ

ドライン制定のほか、お取引先様から率直なご意見を頂くためのサプライヤー・ダイアログを実施するなど、当社グループのものづくりに対する考え方をご理解いただき、意見交換を行う場も設定しました。このダイアログを多くのお取引先様と共にCSR活動を高め合う取り組みの第一歩と位置付け、2015年度にグローバルでのCSR調達の枠組みを構築することを目指し、取り組みを進めてまいります。

環境対応については、これまでの「環境ビジョン」を「環境方針」に改定し、自ら開発した環境保護技術を公開することや、事業活動が生物多様性に影響を与える可能性を認識し、自然界の保護に努めるなどの「国際社会への貢献」を織り込み、内容の充実を図りました。

昨年、第三者意見においてご指摘を頂いていたCSR中期目標の策定については、2011年度に策定したCSR目標に対する活動実績への評価を基に、2015年度に向けた目標として新たに策定しました。今後、定めた中期目標の実現に向けて取り組みを加速させてまいります。

「真摯なものづくり」を原点に 供給者責任を全うします

タイにおける洪水では、私も現地対策本部に合流し、指揮を執りました。そこで見たものは、従業員一人ひとりが自分たちの職場を守ろうという強い意志を持って災害に立ち向かっている姿でした。炎天下、1日当たり3,000名を超える従業員が決して笑顔を失うことなく、防水堤防の構築に進んで協力してくれたのです。

当社グループの経営の基本方針である「五つの心得」には、「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」と書かれています。今回の洪水対応では、まさにこれが根付き実践されている姿を目にすることができました。こうした従業員の気持ちがこの難局を乗り越える大きな力に

なつたと感じ、大変に勇気づけられました。

依然として厳しい経営環境は続きますが、災害を乗り越えた団結力を武器に、2012年度から始まる新中期事業計画を着実に実施してまいります。

当社グループの原点、強みは「真摯なものづくり」であり、それを支える「人」にあります。これまで培ってきた自社のノウハウ、強みを生かして引き続き海外における事業の拡大を図るとともに、グループ全体におけるBCPを整備、強化することで、世界中に多くのお客様を持つ供給者としての責任を今後も全うしてまいります。

社会とともに歩み、 持続的発展を目指します

私は社長に就任して以来、当社グループの総合力を高めるための施策に注力してきました。そして当社グループで働く一人ひとりが、ものづくりへの情熱を持ち、切磋琢磨し合うことが「真摯なものづくり」の追求へとつながることをあらためて感じているところです。創立60周年を機にその思いを新たにするためコーポレートメッセージ「Passion to Exceed Precision」を定め、「単なる精密を超えた『超精密なものづくり』を目指すこと、また単なる精密部品メーカーを超える新しい形のメーカーを目指すことに向けた従業員一人ひとりの情熱」という意味をこの言葉に込めました。このメッセージを合言葉に、グローバル社会の一員として当社グループの持続的な発展を目指し、情熱を持ってさまざまな取り組みを進めていきたいと考えています。

本レポートの発行を通じて、読者の皆様に当社グループの事業活動やCSRの取り組みの進捗をご覧いただくとともに、多くの皆様からご意見を頂戴して今後の企業活動に反映させてまいります。皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。

国連グローバル・コンパクトの支持

国連グローバル・コンパクトとは

国連グローバル・コンパクトは、2000年にアナン前国連事務総長の提唱により創設され、潘基文（パン・ギムン）現国連事務総長も明確な支持を表明している、「各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続的な成長を実現するための世界的な枠づくりに参加する自発的な取り組み」です。

CSRにかかわる人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、そして腐敗の防止のグローバル・コンパクト10原則に賛同する、世界で10,000以上の企業、団体（うち約7,000が企業）が、その実現に向けて努力を継続しています。

